

「岡大教職ナビ」では教職課程を履修しているすべての学生に役立つ情報を随時配信しています。ここでは当センターに届いた最新記事の一部を掲載しています。さらに詳しい情報や最新の情報はセンターホームページ等でご確認ください。

教員・講師等募集情報

- 学校法人沁南学園立正大学湘南高等学校
- 兵庫県立姫路所高等学校非常勤講師
- 岡山県立瀬戸高等学校非常勤講師
- 高松市塩江美術館非常勤嘱託職員
- 高松市美術館非常勤嘱託職員
- 医療法晃進会新富士病院グループ保育士
- 社会福祉法人鳥取上小児福祉協会天心寮保育士
- 瀬戸内市役所臨時保育士
- 学校法人瀬戸内学園倉敷高等学校講師
- 坂出第一高等学校常勤講師
- 飛鳥未来高等学校教職員・非常勤講師
- 社会福祉法人旭東愛児会めぐみ保育園保育士
- 学校法人君津学園木更津総合高等学校教員
- 大阪府立咲洲高等学校常勤講師
- 広島県福山市立小・中学校臨時教員・非常勤講師
- 社会福祉法人球美福祉会なでしこ第二保育園保育士
- 学校法人吉住学園彼洲幼稚園
- 学校法人三原のぞみの会職員
- 丸亀市役所幼稚園臨時講師
- 福岡教育事務所臨時教員登録
- 株式会社ビーエスシー 幼稚園教諭・保育士

スクール・ボランティア募集情報

- 【H25年度ボランティア募集】定期健康診断の補助（岡山大学教育学部附属小学校）

教員採用試験受験記：平成25年度 徳島県 高等学校 数学

合格

大学院自然科学研究科 数理物理学専攻 増田 小百合 さん

私が採用試験の勉強を始めたのは、学部3回生の後期からです。教員採用試験は専門科目の数学はもちろん、一般教養、教職教養、集団討論、面接、模擬授業、論作文とたくさんの課題があります。まずは計画をしっかりと立てることが大切だと思います。私は、筆記試験の勉強において、単元にわけて計画を立て、苦手な分野は何回通りも解きました。なかなか結果に結びつかないこともありましたが、こつこつ毎日積み重ねることに勝るものはないと思います。論作文においても「1週間に1本書こう！」と目標を立て、教職相談室で先生に見ていただいていた。そして、相談室で出会った仲間と、面接や討論の練習をしました。同じ教員を目指す仲間とともに意見を交わすことは、とてもいい刺激になります。採用試験は大変ですが、試験はゴールではないと思っています。その後に教師として生徒たちと過ごしている自分自身をイメージして、仲間とともに頑張ってください！

学校支援ボランティアで自然と笑顔に一学生ルポ一

はじめまして。岡山大学教育学部四回生の信木良太です。私は今、岡山市立妹尾小学校に岡山市の学校支援ボランティアとしてお世話になっています。

私がボランティアを始めようと思ったきっかけは、もっと学校で子どもたちとふれ合いたいという気持ちからでした。一ヶ月の主実習を終えた時、私の中には達成感と共に、もっといろんな子どもたちとふれ合いたいという気持ちが生まれていました。私はその時まで学校支援ボランティアをしたことがなかったので少し不安な気持ちもありましたが、四回生になり、これが最後のチャンスと学校支援ボランティアを始めることにしました。

実際にボランティアを始めてみると、やはり楽しいことばかりではありません。しかし、帰る時に「先生、また来てね。」と子どもたちから声をかけられたり、音楽発表会などの行事で子どもたちの成長した姿を見たりすると、自然と笑顔になれる自分がいました。

私は学校支援ボランティアを始めて良かったと心から思います。こんな素晴らしい経験をさせていただいている妹尾小学校には感謝の気持ちでいっぱいです。もし、今ボランティアを始めようかと悩んでいる方はぜひ一歩踏み出してみてください。きっと、あなたにとって素敵な一歩になるはずですよ。 【文責：教育学部4回生 信木良太】



教職相談室のご案内

（教育学部講義棟2階5209室）

教職相談室を早い時期から利用し始める人ほど

教員採用試験の合格率が高くなる

ということが分かってきました。

教職相談室では、採用試験合格に向けてあらゆる支援をしています。まだ利用していない人はできるだけ早く来てください。（中に人がいても遠慮なくノックしてください。）採用試験についての最新の書籍も大量に入荷しました。平日の朝10時から開いています。

「教師への道」インターンシップシンポジウム

（兼「教師への道」研修第7日目）

平成25年3月16日（土）9:30～12:00

岡山大学教育学部講義棟5202教室（受付9:00～）

- * 参加対象……県内大学・大学院・短期大学の学生（なら誰でも）
（特に、次年度大学3年生、短期大学2年生となる学生）
- * 内容……学生による実践報告、講演、指導助言等
参加申込みは不要です。あなたの参加を待っています！
問合せ先：岡山県教育委員会（TEL 086-226-7585）

この春開始・教職実践演習とは？

1. はじめに

平成22年度（2010年度）以降に入学し、教員免許の取得を希望している学生の皆さんは、これまでの総合演習に代わる教職実践演習という、教職に関する新設科目を学習することになります。これは「教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令」の施行に伴う、4年次に履修する必修科目（2単位）となります。

2. 教職実践演習設定の理由

この科目を設定する基となったのは、平成18年に出された中央教育審議会答申にあります。この答申には、現行の教員養成と免許制度の成果として、「大学における教員養成」と「開放制の教員養成」の原則により、これまでに質の高い教員が養成されてきたこと、我が国の学

校教育の普及・充実や社会の発展に貢献してきたことが挙げられています。あわせて課題として、教員免許状が保証する資質能力と、現在の学校教育や社会が教員に求める資質能力との間に乖離が生じてきている、という内容が指摘されています。このような課題を克服するために、教員として必要な資質能力の最終的な形成と確認を目的とした、教職実践演習が新設されました。

3. 教職実践演習の趣旨とねらい

教職実践演習の趣旨は、大学に入学して以降の教職課程の履修を通じて培った、教員として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身に付けてもらうこととともに、その資質能力の全体を確認することです。すなわち、この科目がいわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」の位置づけとなることにあります。

答申には、教員として最小限必要な資質能力の全体に関わる、教員として求められる4つの事項について、次のようにあげられています。

- ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
- ②社会性や対人関係能力に関する事項
- ③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項
- ④教科・保育内容等の指導力に関する事項

次に、この科目の趣旨に沿った授業方法については、科目名にも表れているように、役割演技（ロールプレーイング）やグループ討議、事例研究、現地調査（フィールドワーク）、模擬授業等の演習形式で展開されることが適当とされています。

指導教員については、教科に関する科目と教職に関する科目の担当教員が、共同して、科目を実施することが学生の学びにとって重要とされています。

この科目は、教職課程を履修している学生の皆さん一人一人が、将来教員になる上で何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能を補い、定着を図ることにより、教職生活が円滑にスタートできるようになることを期待されているのです。

4. 岡山大学の全学教職実践演習

岡山大学においても、来年度から教職実践演習がスタートします。本学では、教育学部学生対象（4年次、通年）と全学教職課程履修学生対象（文・法・経・理・工・環・農・MP、4年次後期）が実施されます。ここでは全学教職課程の教職実践演習の大まかな概要について説明します。

全学教職実践演習は4年次後期（2単位）火曜I-II限（2013年10月1日より開始）に実施します。演習効果を上げるために、2時間続きの構成にしていることを特徴としています。従って、全学教職課程を履修する人は他の講義を後期火曜I-II限へ入れないようにしてください。

次に授業内容については、大きく「オリエンテーション」「学習指導力に係る省察」「模擬授業演習」「現代的教育課題に係る省察」「まとめ」で構成する予定です。詳しくは平成25年度教育学部シラバスで確認してください。

指導教員については、教科に関する科目教員を各学部から選出された先生方が担当し、教職に関する科目教員を教師教育開発センターの先生方が担当します。通常なかなか指導を受ける機会のない、他学部の先生の知見に触れる貴重な機会になっていることも特徴の一つです。学生の皆さんとともに、学びのある、魅力のある授業を築けることを期待してやみません。 【文責：榎田健志】

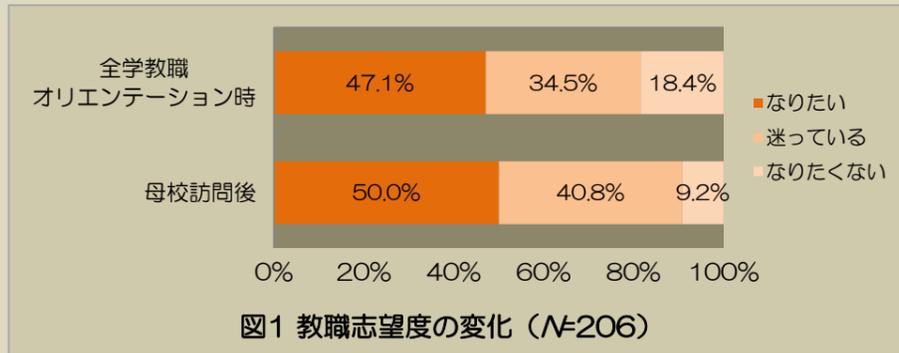
センターでは、データに基づいた教職課程の改革・改善に取り組んでいます！！

教師教育開発部門では、全学教職課程を履修する学生さんを対象に、定期的なアンケート調査を行っています。ここではその中から、本年度に母校訪問を終えた学生が、入学後の全学教職オリエンテーション時と比較してどのように変化してきているかの一部を紹介します。

このうち“教職志望度（現時点で教師にどの程度なりたいと思っているか）”に関してしてみると、“教師になりたくない”学生が減り、“迷っている”“なりたくない”学生が増えているという結果になりました（図1）。変化の内訳をもう少し見ていくと“迷っている”から“なりたくない”、“なりたくない”から“迷っている”に変化した学生さんがそれぞれ1割ずついることとなります。母校訪問を通して教師になるこ

とへの思いを深めていることが窺えます。一方で、教員採用試験を受けたいと思う程度については、“受験する”と答えている人が減り、“受験しない”と答える人が増えていることも見出されています。これは、母校訪問を通して、漠然とはありますが教師になりたいという思いを強めると同時に、教職に真剣に向き合うようになった結果と解釈できると我々は考えています。

教師教育開発部門は、このようなデータに基づいた教職課程の改革／改善に取り組んでいます。皆さんが教師へと育つために必要な課題を適切に把握することで、授業方法に工夫を凝らしたり、新たなプログラムを開発・提供することに取り組んでいます。一人でも多くの学生が教職を志し、優れた教師として巣立っていけるように支えていきます！！ 【文責：三島知剛】



学級開きの実際を紹介



第5回目は、学校教育学系准教授の高瀬淳先生に学級開きの意義を、岡山市立伊島小学校の岡本利明校長先生に新任初日から八日目までの学級開きの実際を紹介していただきました。学年始めの学級指導では重要書類の配布など膨大な学校事務があります。そんな中、子どもたち同士が打ち解け合ったり、こんなクラスにしたいんだという担任のポリシーを伝えることが大切だということ。またそのためには、あらかじめ十分な計画を準備しておき、学級開きの進め方を思い描いておけば子どもたちと良い出会いができるということを教えて頂きました。 【文責：松原泰通】

CST第三期生募集開始



平成25年秋より岡山CST養成プログラムに参加する学生CSTの募集を行いました。応募期間は1月23日～1月31日、これに先立ち教育学部生向けの募集説明会を1月10日に、また、理工系学部学生向けの募集説明会を1月16日に開催しました。募集時期を3ヶ月遅らせ応募数の増加を期待しましたが、説明会参加者は両日合わせて27名でした。後日、岡山県・岡山市公立学校教員採用候補者選考試験における特別選考試験として、CST修了者に対する1次試験の免除が明らかになりました。参加する学生には、朗報といえるでしょう。 【文責：山崎光洋】

紀要第3号投稿御礼



センター紀要第3号に沢山の投稿を頂き、誠にありがとうございました。1月15日に編集委員会を開催し、第3号では20本の研究論文や実践報告等を掲載することとなりました。本紀要は全学に開かれた紀要であり、次号でも教育学研究科・教師教育開発センター以外から3本の投稿を頂いています。詳しくはセンターのホームページに投稿規定等をアップしておりますのでご確認ください。来年度以降も、皆様の投稿をお待ちしております。 <http://cted.okayama-u.ac.jp/project/bulletin/> 【文責：高旗浩志】

教員リレー・エッセイ「ひょうたんから駒なのかも」

副センター長 高橋 香代 教授



教師教育開発センターが設置されて以来、ほぼ3年が過ぎようとしています。センターの設置は、平成21年度文部科学省大学教育推進GⅡ「総合大学が担う特色ある教員養成の質保証」の採択がきっかけですが、その後平成22年度には「理数系教員(CST)養成拠点構築事業」が、平成23年度からは文部科学省特別経費先進的教員養成プロジェクトも採択されてセンターのスタッフと活動は充実しました。

総合大学として全学の教員養成の質を保証するという発想は、教育学部の教員養成教育改革が進む中で生まれました。その裏には、他学部生が教育実習で問題を起こしたとか、事前指導でも不真面目だという指摘があったのも事実です。

しかし、教職相談室の全学開放や、「全学教職オリエンテーション・母校実習」、「教職論」、「教育実習基礎研究」など全学教職コア・カリキュラムの取組が進むとともに、学生の生き生きとした反応が伝わってきました。「教職論」の受講生から「受講して学んだことは、『具体的な知識』というよりは、教師になるためにはもっと色々なことを知らねばならないという『これからの姿勢』であった」の感想をもらい、学び続けることの大切さを認識されたことが分かりました。教職志望学生のこのような意識の変化や学ぶ意欲が、大学教員にも伝わって、プログラムの工夫や改善にも一層力が入りました。

「ひょうたんから駒」という諺は、「思わぬところでいい結果が出る」という意味で、この経験を表現するには的を射てはいないでしょう。しかし教師教育開発センターという小さな組織の取組の中で、将来学校教育で活躍する若駒が育とうとしている姿を見て、私の期待は勝手に大きくなってしまいました。少々の的はずれは、年の功でお許し願って、皆様にバトンを渡したいと思います。

教員リレー・エッセイ「ポリシー」

教職支援部門 松原 泰通 教授(特任)



教職相談室の勤務も、5年が終わろうとしている。私は、学生たちが教師になったら、やはり充実感のある幸せな教職人生を歩んでもらいたい。そのような思いで、「今指導したことは合格しても覚えとけよ。」と、教職生活に生かすようにたびたび言っていた。1年目の平成二十年度の合格発表も終わった頃、意外にも、学生たちが新採と

して四月に赴任することに不安を感じていることを打ち明けてくれた。ケータイのこと、クレーマー対応、いじめ・不登校の問題、学力問題、生徒指導など教職実践力のニーズや現場での立ち位置をどう自分の取り組みに結び付けたいのかかわからない状況に陥っていた。一方、中教審も大学改革に着手し、教員養成についても実践力を重視していた。

このようなことから、現場の校長先生に「今の課題に、学校として着実に取り組んでいますよ。」と、生の声で学生に語っていただき、学生たちには、そこから講師の先生のポリシー、教育哲学、覚悟を感じ取り、自分のやる気につなげてくれたらなあという願いで「教師力養成講座」を始めさせていただいた。

講師の先生方のテーマに対する真剣な取り組みに加えて、学生たちが自分たち教師集団の仲間になってほしいという熱い思いが語られ、毎回、充実した講座を持つことができた。このことは教育学部以外の学生たちにも伝わり、参加して良かったという感想をいただいている。四年間で二十三回も開催することができたが、関係者の皆様のご協力のお陰であり、学長裁量経費を充当してくださった大学当局の物心両面からのお支えのお陰と感謝すると共に、学生たちが充実した教職人生をされるよう祈っている。

教員採用試験のツボ その式『筆記試験対策は「継続」と「仲間」』

採用試験の最初にあるのが筆記試験です。教員として必要な最低限の教養や知識の中からたずねられます。試験問題は3つの領域から出題されます。一般教養・教職教養・専門です。そこで、まず、あなたが受験しようとしている県・市の過去問を調べ、それぞれの領域においてどのような問題が出されてきたかを確かめましょう。岡山県の教職教養では毎年人権教育について

出題されています。専門では学指導要領についてたくさんたずねられています。他県では、いじめや体罰などの現代的な課題について出されているところもあります。筆記試験対策のポイントは「続ける」ということです。試験当日まであと5ヶ月、計画を立てて毎日コツコツと続けるということです。例えば、「平日は2時間、土日祝日は4時間、1日10ページ」と決めて、

何があってもそのノルマをこなしていくという強い意志が必要だということです。しかし、体調を崩すなど苦しいことも必ずあります。そんなときに支えになるのが仲間です。励まし合い、助け合い、支え合って、みんなで一緒に合格しようと誓い合う仲間を持つこと、これも大切なポイントです。教職相談室ではそんな仲間を見つけることもできますよ。 【文責：小川潔】